地球物理学研究連絡委員会（地物研連）気象分科会報告

(1) 気象分科会では GARP (Grobal Atmospheic Research Progran) に関連して昭和42年度文部省科学研究費特定研究「地球大気の大循環」を学術会議「研究費委員会」に申請しましたが，今年度は一応文部省に推せんされませんでした．

(2) 去る7月25日に開かれた地物研連主任幹事会にに，気象分科会から次のような提案を致しました．

(a) 現在の地球大気科学小委員会を「特別委員会」にして貰いたい．

(b) ICSU 内の大気科学小委員会 (Committee on Atmospheric Sciences, 略称 CAS) が計画している GARPを日本でも強力にすすめるよう日本政府に勧告して貰いたい．

以上の二点について，主任幹事会では来年春の学術会議総会で日本政府への勧告をして貰うよう学術会議第4部会に働きかけることにきめました．

(3) GARP に関する Eliassen (ICDM の chairman) の手紙 Eliassen から Phillips (ICDM の Sectreary) への手紙の写しという形で，ICDM の委員正野教授の所に下記のような要旨が送られてきました．

1066年4月22日～25日ジュネーブで開催された ICSU/IUGG の大気科学委員会 (CAS) での気象力学分科 (ICDM) に関するものとしては

(a) 研究グループの発足

(1) Tropical observations (2) Earth-atmosphere (3) Radiation network (4) Dynamic modelling (5) Technological development といった研究グループを発足させ，各グループは大体4～5名（内1名は senior scientist）のスタッフで構成する．また各グループは host institute で仕事を行なう．また host institute はスタッフの給料の半額は受持ち，スタッフの旅費その他の経費は WMO または国連で支払う．総予算は年間20万ドルで今年の10月頃から発足させたい．

(b) Target year の設定

1970年迄に具体的計画をきめ，1972年を target year として可能な限りの 30km 以下の大気中の観測を行なう．これは1976年にもう一度くりかえされる．

なお，上記研究グループのうち tropical research project についてはスタッフとして Dobrishman（ソ連）Lilly（米国）Döös（スエーデン）等が候補者として推せんされている．これに対し，phillips は WMO の高層気象委員会 (CAe) の Working Group on Tropical Meteorology と共同して行なうことを提案している．

(4) IUGG 総会について

1967年9月25日～10月7日スイスの Zürich および Lucerne で IUGG の総会および IAMAP（気象分科会）の総会が開かれます．気象分科会に関するものの日程は次のようになっています．

9月26日　放射および雲物理のシンポジウム
9月27日　オゾンのシンポジウム
9月28日　上層大気およびレーダーのシンポジウム
9月29日　大気と海との相互作用，および空中電気のシンポジウム
9月30日　気象力学のシンポジウム
10月2日　地球化学のシンポジウム
10月3日　気象力学のシンポジウム
10月4日　空中電気のシンポジウム
10月5日　超音速飛行機と気象のシンポジウム
10月6日　Polar 気象のシンポジウム

また発表論文は「招待」という形をとられ，それ以外は5～10分間で要約を行なうという形式がとられます．以上の IUGG 総会に関して，地物研連では7分科会から各分科平均3名の出席希望を学術会議に要望しました．今迄の例では地物研連全体で3名位しか出席できません．

(5) Journal of Geophysics

毎年日本学術会議から Journal of Geophysics（印刷頁約150頁）が発行されています．これには学会誌にのらないような相対的に長い論文をのせています．上記雑誌の論文締切りが**10月30日**になっていますので希望者は至急気象分科主任正野まで申し出て下さい．